

## 局所進行非小細胞肺癌に対する根治的化学放射線療法後局所再発例のサルベージ手術に関する後方視的研究

### 1. 研究の対象

2000年から2024年まで、国立がん研究センター中央病院呼吸器内科において、局所進行非小細胞肺癌に対し、根治的化学放射線療法を実施された患者さんで、治療開始時に年齢が20歳以上の方が対象となります。

### 2. 研究目的・方法

局所的に進んだ非小細胞肺癌に対しては、まず「治すことを目指した抗がん剤と放射線の同時治療」を行い、その後に「免疫療法(デュルバルマブ)」を追加するのが、現在の標準的な治療方法です。

この治療は多くの患者さんで効果が見られ、以前よりも全体の経過が良くなっています。

一方で、治療が終わったあとに、元の場所の近くにがんが戻ってくる(局所再発)場合が一定の割合であります。

こうした局所再発の中には、患者さんの状態や再発の場所などをしっかり検討したうえで、

「サルベージ手術(再発に対して行う手術)」が選択されることもあります。

しかし、これまでの報告の多くは症例数が少なかったり、成功例が中心で、どれくらいの患者さんに局所再発が起こるのか、そのうち、どれくらいの方が手術を受けられているのか、デュルバルマブが使われるようになってから、再発のしかたや手術の役割がどう変わったのか、といった点は、まだしっかり分かっていません。

そこで今回の研究では、当院で根治的な抗がん剤+放射線治療を受けた患者さんについて、治療後にどのくらい局所再発が起きているのか

サルベージ手術がどのくらい行われているのか

手術の安全性や、がんを取りきれたかどうか

手術後の経過

などを過去の診療記録をもとに調べます。

さらに、デュルバルマブが導入される前と後で、再発の傾向や手術の位置づけにどのような違いがあるかも比較することを目的としています。

この研究は研究許可日から2029年3月31日までの期間で行う予定です。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では、電子カルテ等に記録された臨床情報、画像所見、さらに治療関連情報、手術記録・病理所見、転帰情報等を用います。

### 4. 試料・情報の授受

本研究は単機関研究であり、他の機関への試料・情報の提供はありません。

本研究で用いた試料・情報を国内外の機関で実施する将来の医学的研究のために、研究終了後も大切に保管させていただきます。新たな研究に用いる際には、国内外の規制に則り、あらためて

研究計画書を作成して研究倫理審査委員会の承認や研究機関の長の許可を受ける等、適正な手続を踏んだ上で行います。

なお、新たな研究の概要・研究機関については、新たな研究に関わる機関（試料・情報の授受を行う機関すべて）公式ホームページ等にて情報公開いたします。

・国立がん研究センターが参加する研究に関する公開情報

[https://www.ncc.go.jp/jp/about/research\\_promotion/study/zisshi.html](https://www.ncc.go.jp/jp/about/research_promotion/study/zisshi.html)

## 5. 研究組織・研究責任者

研究代表者（研究責任者）

国立がん研究センター中央病院 呼吸器外科医長 吉田幸弘

研究事務局

国立がん研究センター中央病院 呼吸器外科レジデント 大熊真理

## 6. お問い合わせ等

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

試料・情報が研究に用いられることについて研究対象者の方もしくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

なお、この研究が適切に行われているかどうかを確認するためや研究の科学的意義を検討するために、国内外の第三者の立場の者が研究対象者の方のカルテやその他の診療記録、研究データなどを拝見することがあります。このような場合でも、これらの関係者には守秘義務があり、個人情報は守られます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究代表者

国立がん研究センター中央病院呼吸器外科 医長 吉田幸弘

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL:03-3542-2511